



青い海を背景にアポイアズマギクで吸蜜するヒメチャマダラセセリ 2012年5月27日 北海道アポイ岳 写真/岡本雅昭

## CONTENTS

- 
- 02 海野和男が語るチョウの魅力  
アカセセリ
  - 04 混棲地は動いている！  
鮭川村のギフチョウとヒメギフチョウ
  - 06 保全活動レポート  
ヒメシロチョウ/大分県  
オオルリシジミ/熊本県
  - 08 「種の保存法」にチョウ3種が  
追加指定されました
  - 10 チョウの観察記録の継承へ  
～過去の自然環境を描き出すために～
  - 14 Action for Butterflies  
ツシマウラボシシジミ  
ゴマシジミ
- 
- 07 お知らせ①
  - 18 イベントの報告
  - 20 お知らせ② (P.7のつづき) と事務局の動き
- 

# チョウの舞う 自然

THE JAPAN BUTTERFLY  
CONSERVATION SOCIETY  
NEWSLETTER NO.22  
JUN.2016

日本チョウ類保全協会 会誌22号

表紙：ヒメヒカゲ



瀬戸内海に面した兵庫県の播州平野は、日本で最も雨の少ない地域だ。丘陵の乾いた斜面には痩せたアカマツの林が続き、岩肌が露出する斜面の湿地では、草いきれのなかをヒメヒカゲが舞う。播州を代表するチョウといわれながら分布は局地的で、郷里を自転車で走り回った中学生・高校生時代には発見できず、探索は実らなかった。激減を伝え聞き、気にかかっていた播州の生息地を訪ねて対面が叶ったのは、故郷を離れて二十余年後の初夏のことだった。

兵庫県南部 2016年5月27日

写真・文/永幡嘉之